

『わたし』が『あなた』に「共感する」とはどういうことなのか？

-人は他人に言葉をかける前に、何度も、何度も、何度も、何度も、その人の感情を「先読み」している-

今回は『わたし』が『あなた』に接するとき、心はどう動いているのか？という話です。

人は他人に話しかける前に、実は何回もその人の心の中を推し量ります（図1）。それを分かりやすくモデル化したのが図2のバーロン・コーエン（心の理論の著者）モデルです。

① 「××されたら〇〇と思うだろうなあ…」という感情のマインドリーディング:情動検知のモジュール

… 例えば「こんなこと言われると嬉しいだろうなあ…」とか。「情動」、つまり感情の動きを先読みすること。

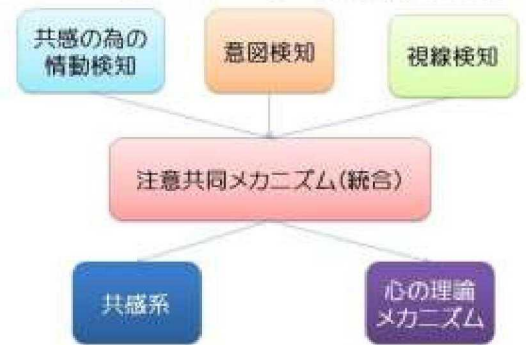
② 「〇〇したいと思っているだろうなあ」というマインドリーディング:意図検知のモジュール

… 例えば、A先生は言葉足らずだけれど、言いたかったことはこういうことなんだろうなあ…とかの意図の想像。

③ 「私が見ていることを、あなたも見ている」という

3項関係：視線検知のモジュール

バーロン・コーエンの共感モデル



参考文献:共感 心と心をつなぐ感情コミュニケーション /へるす出版/福田正治

健全な人はこういうサイクルを他人に話しかける前にクルクル回して、①②③を統合した最後にコミュニケーションを取っています。また、好きな人、苦手な人、気を遣う人…なんかが対象になる場合にはこのクルクルが100回転したりなんかもします。そして、なんか共感ができないなあ…、相手とすれ違っちゃってるなあ…と感じるときには①②③のいずれかが相手とすれ違っているということになります。

一方、発達障害のある人の場合。

先日、「Lemon」で平成3人目の300万セールスを達成した米津玄師さんには発達障害（昔でいうアスペルガー障害）があり、家族と離縁するという過去があったことを週刊紙のインタビューで公表したという記事を見かけました。発達障害のある人は、その特性上①と②がとっても苦手ですし、コミュニケーションを教える場合には、「言語表出」と「言語理解」という二本柱とはまた別に、「情動見知」「意図見知」「視線の向き」についても把握をし、特性による困り感がでていいる場合には支援をしていく必要（←『国・算』で、超重要!!!!）が出てきます。また、自分自身が上手くコミュニケーションを取れない人との関係性を、こういったモデルに当てはめて分析してみるのも面白いかも知れません。

「共感」、深イイでしょ。